

中国の軍改革と今後の行方

中 川 真 紀

(公益財団法人国家基本問題研究所 研究員)

1 はじめに

二〇一三年十一月、習近平中国共産党中央委員会総書記(以下、中共中央総書記)は中国共産党第十八期中央委員会第三回全体会議(以下、三中全会)での報告において軍改革を公表した¹。習が同年三月に胡錦濤から中華人民共和国主席及び中華人民共和国中央軍事委員会主席を引き継いだわずか八か月後のことである。そして二〇一四年三月には、国防・軍隊改革領導小組を設立、自らこの組長となり、軍改革を推進して行く。

共産党の重要会議である三中全会において発表されたこ

と、習が国防・軍隊改革領導小組組長となったことは、中国の軍改革が単なる中国人民解放軍(以下、中国軍)の改革だけに止まらず、習が中共中央総書記兼国家主席兼中央軍事委員会主席(以下、中央軍委主席)として担う国家建設の中で重要な位置付けにあることを示している。

本論文では、中国の国家建設における国家目標とそれの結果たす中国軍の役割及び軍に与えられた目標を踏まえ、軍改革の経緯・成果を考察し、今後の軍改革の行方を見通す。

2 中国の国家目標と中国軍

中国の国家目標を語る時、最も大きな概念とされている

のが「中国の夢」である。この言葉を習近平が中共中央総書記として最初に使用したのは二〇一二年十一月の中国国家博物館「復興の道」展の見学時であった。習は「現在みなが中国の夢について語っている。私は中華民族の偉大な復興の実現が、近代以降の中華民族の最も偉大な夢だと思う。」と語った。

二〇一三年三月には、習近平国家主席として、第十二期全国人民代表大会（以下、全人代）第一回会議の閉幕式で「小康（ややゆとりのある）社会の全面完成、富強・民主・文明・調和の社会主義近代化国家の完成という目標の達成、中華民族の偉大な復興という夢の実現は国家の富強、民族の振興、人民の幸福を実現させるものである。」と述べた。そして二〇一七年には「中国の夢」は中国共産党規約に盛り込まれた。

習が語っているように「中国の夢」とは「中華民族の偉大な復興」であり、中国共産党が目指す国家建設の最終目標である。この「復興」の中には当然「台湾統一」も含まれる。

そして中国国防白書には「台湾統一は中華民族の偉大な復興の必然的な要求」と記述されており、その統一の手段

として最も必要とされるのが中国軍である。

中国軍は「中国人民解放軍」というその名が示す通り、その任務は人民と共産党から付与され、行動にあたっては共産党に領導（注・強制力を伴う指導を示す）される党の軍隊であり、その任務は国防白書二〇一九年版⁵によれば以下の通りである。

- ・ 中国共産党の領導と社会主義制度を強固にするための戦略的支柱
- ・ 国家主権・統一・領土保全を擁護のための戦略的支柱
- ・ 国家の海外権益擁護のための戦略的支柱
- ・ 世界の平和と発展促進のための戦略的支柱

このように国家目標達成のために重要な役割を担う中国軍には、国家目標に準じた軍の目標が付与されている。次頁の表1はそれぞれの目標を纏めたものである。

二〇二〇・二〇三五・二〇五〇年の目標は「三段階の発展戦略」と呼ばれ、二〇一七年十月の第十九回中国共産党全国代表大会（以下、党大会）で公表された。これに二〇二〇年第十九期五中全会において二〇二七年建軍百年

表 1：国家及び軍の目標

	国家目標	軍の目標
2020 年	小康社会の全面的実現	機械化を基本的に実現し、情報化建設に重大な進展をもたらし、戦略的能力を大幅に向上させる
2027 年		建軍百年奮闘目標の達成
2035 年	社会主義近代化を基本的に実現	国防と軍隊の近代化を基本的に実現する
2050 年	中国を富強的、民主的、文明的、調和的、美しい社会主義近代化強国を構築	解放軍を世界一流の軍隊にする

国を排除せねばならない。そのために、米軍と対等に戦い、戦って勝てる世界一流の軍隊にならねばならない。

すなわち、軍の目標が達成できなければ国家目標は達成できず、国家目標を達成するためには軍にその目標を達成

奮闘目標が追加された⁷。これは二〇二〇～三五年では十五年と長すぎるので中間目標が必要であったこと、また建軍百年の目標とすることで軍内の士気高揚の目的があったと考えられる。

国家目標に準じて軍にもそれぞれ目標が与えられていることは、国家目標達成に果たす軍の役割が大きいことを意味する。特に、二〇五〇年には台湾統一を成し遂げて社会主義近代化強国を構築し、「中国の夢」を実現するには、台湾統一の最大の障害である米

させなければならないということだ。

3 軍改革の必要性

前項で述べたように、中国の国家目標達成のため、中国軍を世界一流の軍隊にしなければならぬ。

習近平は二〇一二年十一月に中国共産党中央軍委主席に就任したが、翌月の十二月には広州軍区（当時）を視察し、中央軍委主席としての最初の視察先において「我々は中華民族の偉大な復興という夢の実現のため、富国強兵を推進し、精強な軍隊建設に努力せねばならない。一に党の指揮に従うこと。二に戦える・戦って勝てる軍になること。三に法により軍を統制すること」と訓示した⁸。

翌年の二〇一三年三月、胡锦涛から中華人民共和国中央軍委主席を引き継いだ後の最初の第十二期全人代における解放軍代表団全体会議でも「戦って勝てることは核心であり、軍隊及び軍建設の根本である」と述べ、以降、「戦える、戦って勝てる」（中国語：「能打仗、打勝仗」）は軍のスローガンとなり、現在でも常用されている。

翻って言えば、習近平は当時の中国軍は「戦って勝て

る」どころか、そもそも「戦えない」部隊と認識していたに違いない。軍の全権を掌握する前から軍改革の必要性を痛感し、着々と準備を進めていたのである。胡錦濤から全権を引き継いだわずか八か月後の二〇一三年十一月、党第十八期三中全会において軍改革を公表した。

これ以降、習近平は単に目標を掲げるだけでなく、国家目標に果たす軍の役割を明確にし、軍の問題点を洗い出し、自ら先頭に立ち、一步一步中国軍の近代化を進めていくことになる。

4 軍改革の実施

軍改革は二〇一三年の公表後、二〇一五年から具体的な施策が実施され、二〇二二年に一度総括が行われ、二〇二四年現在でも補備修正をしつつ、継続している。

次頁図1は筆者が、軍改革を段階ごとに区分して纏め、軍の目標との関連を付記したものである。

軍改革は大きく、計画準備↪機構改革↪制度改革↪戦備運用改革↪新領域改革に分けられると考えており、以下、それぞれの段階ごとに改革の内容を考察する。

(1) 計画準備 (二〇一三年十一月～二〇一五年十一月)

二〇一三年の軍改革公表後、二〇一四年三月には、習近平中央軍委主席を組長とする国防・軍隊改革領導小組第一回全体会議が開催され、軍改革の組織、計画等について検討が開始された。¹⁰

そして約二年間の準備を経て二〇一五年十一月、中央軍委改革工作会议において習の指示の下、¹¹全体計画が決定され、具体的な施策が開始された。

(2) 機構改革 (二〇一五年十二月～二〇一八年)

ア 指導指揮体制改革

改革開始後、最初に着手したのが「首から上」と言われる、指導指揮機構の改編であり、以下の機構改編・部隊創設を実施した。¹²

◇陸軍司令部、ロケット軍、戦略支援部隊創設 (二〇一五年十二月)

◇中央軍事委員会を四総部体制から十五の部・庁等へ分割 (二〇一六年一月)

◇七大軍区から統合組織である五大戦区へ改編 (二〇一六年二月)

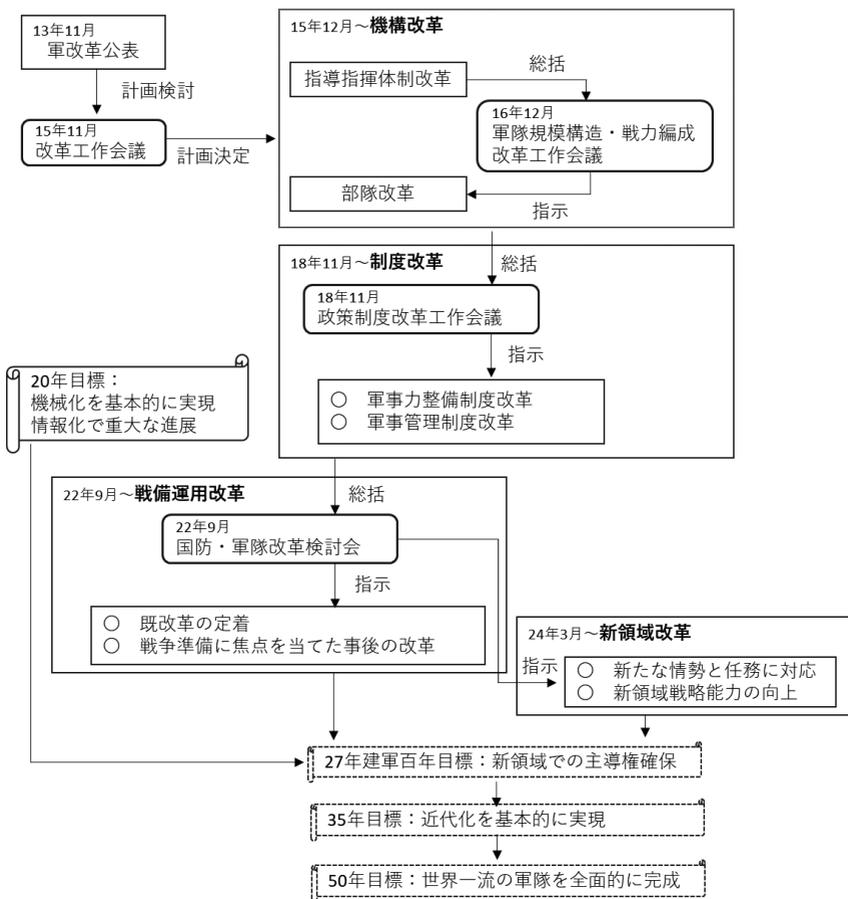


図1 軍改革の概要（各種報道より筆者が作成）

◇ 習近平が中央軍委統合総指揮官に就任、中央軍委
統合作戦指揮センター視察（二〇一六年四月）

◇ 聯勤保障部隊創設（二〇一六年九月）

これらの改編は、「中央軍事委員会が全てを管理し、
戦区が作戦指揮を担任し、軍種が部隊建設を担任する」
（中国語：軍委管総、戦区主戦、軍種主建）のスロー
ガンの下を実施された。

改革前は四総部（総参謀部、総政治部、総後勤部、
総装備部）がそれぞれ権限を持ち、各部ばらばらに各
軍種部隊の作戦指揮（軍令）・部隊建設（軍政）業務
を行っており、縦割り行政の弊害と共に汚職腐敗が指
摘されていた。

しかし、指導指揮体制改革により、作戦指揮は中央
軍委主席（兼中央軍委統合総指揮官）〈戦区司令官〉
戦区部隊、部隊建設は中央軍委主席〈軍種司令官〉軍
種部隊という一本化した指揮系統が完成し、次頁図2
のように中央軍委主席兼中央軍委統合総指揮官である
習近平の意図が軍政と軍令の両ラインで末端まで徹底
される効率的な指揮体制となった。

イ 「中央軍委軍隊規模構造・戦力編成改革工作会議」

二〇一五年十二月から開始された指導指揮体制改革
は、二〇一六年十二月に開催された「中央軍委軍隊規
模構造・戦力編成改革工作会議」¹³で一旦総括された。

同会議で習近平は、「指導指揮体制改革をまず実行
し、軍隊組織機構の歴史的変革を実現させた。」と述べ、
指導指揮体制改革が一段落したことを宣言した。

更に「現在、戦争の形態は情報化戦争に変化し、一
体化統合作戦が基本作戦形式となっている。これに対
応するため、構造を変化させ、精強化・一体化・小型
化・モジュール化・多機能化が必要である」「人員削
減を継続し、兵力構成を是正し、精強で質の高い近代
化常備軍を整備せねばならない。作戦部隊編成を改革
し、多機能を有し広範な作戦に適応できる部隊を育成
せねばならない。」と述べた。

指導指揮体制改革の次は、情報化戦争・統合作戦に
対応できる作戦部隊の改編に焦点を移行するよう指示
をしたのだ。

ウ 部隊改革

「中央軍委軍隊規模構造・戦力編成改革工作会議」後
の二〇一七年以降は、「首から下」と言われる部隊改

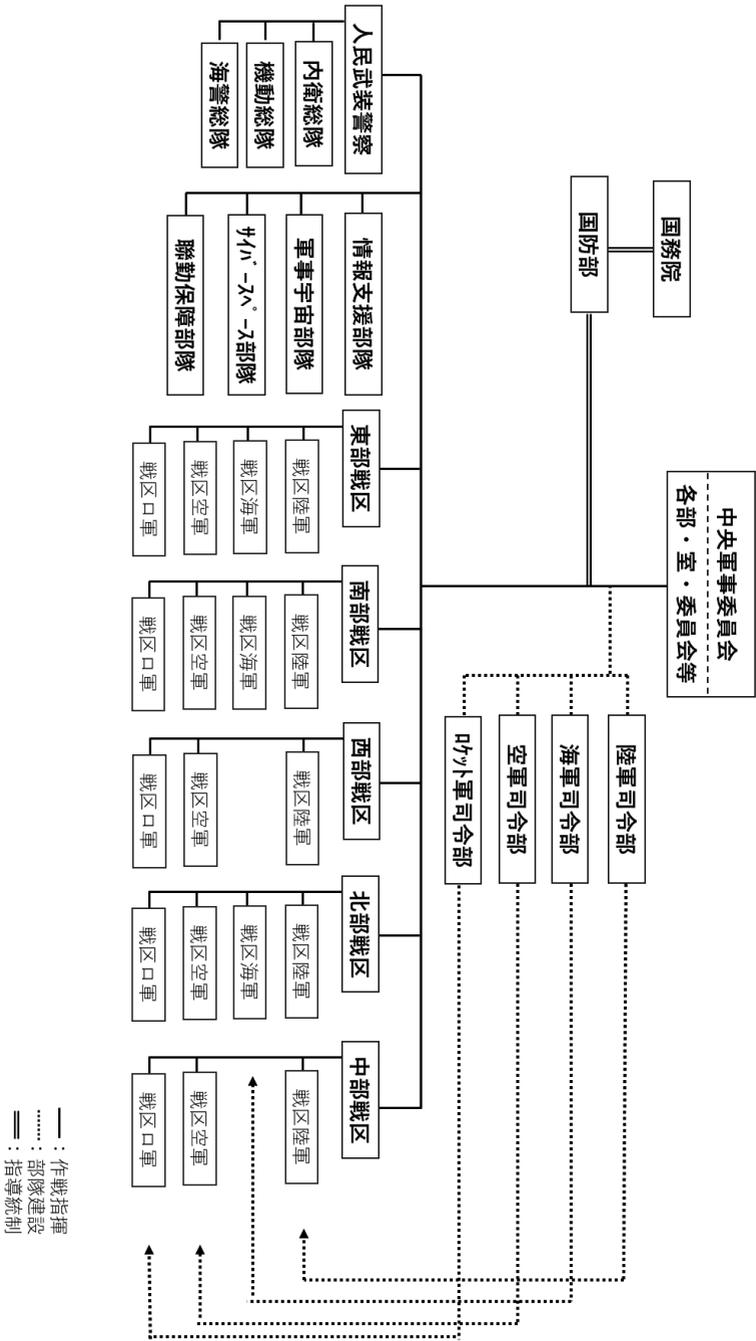


図2 中国人民解放軍組織図 2024年8月現在 (各種報道より筆者が作成)

— : 作戰指揮
 : 部隊建設
 - - - : 指導統制

革が実施された。¹⁴

◇集団軍を十八から十三に改編（二〇一七年四月）、歩兵師団を合成旅団化

◇軍学校を整理統合、訓練・研究を推進（二〇一七年七月）

◇三十万人の兵員削減（二〇一七年末まで）

◇人民武装警察指揮系統を中央軍事委員会隷下に一本化（二〇一八年一月）

◇軍事訓練大綱を初公布（二〇一八年一月）

◇文官（中国語・文職人員）の採用開始（二〇一八年六月）

◇中国海警局が海警総隊として人民武装警察に編入（二〇一八年七月）

この部隊改革により、軍の規模構造・戦力編成は大きく変化した。¹⁵

まず、二〇一七年末を目標とし兵員三十万人削減が実施された。二〇一八年三月の第十三期全人代第一回会議政府活動報告において、三十万人兵員削減が基本的に達成されたと報告されており、二二〇万人から二〇〇万人へ一三％の削減が完了した。

各軍種の兵員割合を見直し、陸軍の兵員数を五〇％以下に引き下げ、空軍は現状維持、海軍及びロケット軍は増員とした。

階級ごとの割合も見直し、各級機関内の指導機構等を廃止し将校を三〇％削減、専門知識をもって装備を操作する軍曹の比率を向上させた。また文官採用も開始し、高学歴の人員による科学技術の向上を図った。

非戦闘兵員については、文芸出版体育・サービス・医療関連等の人員を削減し、半減させた。

部隊編成については、集団軍を改編し、歩兵師団をコンパクトで歩兵・戦車・砲兵等の機能を有する合成旅団に統一、全軍で軍―旅団―大隊体制を確立し、習近平の指示した「精強化・一体化・小型化・モジュール化・多機能化」を実現した。

また、これまで国務院と二重指揮であった人民武装警察を中央軍事委員の統一指揮とし、更に海警局を海警総隊として編入することで、中央軍事委員会による指揮系統一本化を強化した。

部隊改革により、「戦わない」組織・人員を淘汰し、「戦える」人員による「戦える」部隊編成を整えた。

(3) 制度改革（二〇一八年十一月～二〇二二年）

ア 中央軍委政策制度改革工作會議

二〇一八年十一月に「中央軍委政策制度改革工作會議」が開催された。この會議を節目に、機構改革により組織の枠組みを整理した後の、組織を運営するための制度改革が開始されたと言える。

同會議で習近平は、「軍事政策制度改革の計画・実施は重要な政治責任」と述べ、人的資源（将校職業化制度・軍人待遇優遇化及び名譽保障制度等）・訓練・裝備兵站・研究開発・国防動員・軍民融合等の軍事力整備制度改革、並びに国防費・国防資源分配・軍事法規法典化・軍事司法等の軍事管理制度改革の、二分野の制度改革を指示した。

更に、「軍事制度改革は軍と中央・地方政府双方の共同責任である」とし、国家全体で軍の制度改革に取り組む環境を整えた。

イ 制度改革

二〇一八年十二月には「国防・軍隊改革領導小組第四回全体會議」が開催され、制度改革についての計画について審議された。以降、以下のような制度改革が

実施された。¹⁸⁾

◇軍隊有償サービス任務終了（二〇一九年七月）

◇予備役を中央軍委統一指揮下（二〇二〇年七月）

◇聯合作戰綱要（試行）施行（二〇二〇年十一月）

◇新型軍事訓練體系構築に関する決定（二〇二二年二月）

軍隊有償サービス任務終了により、軍隊が金儲け、という制度を廃止し訓練に専念する環境を与えた。予備役部隊を全て軍の指揮体系下に置き、現行の軍・地方の二重指導体制から、中央軍事委員会による集中的・統一的指導へと変更した。訓練・作戰規定等の整備により、実際に部隊が訓練できる制度を整えた。

また、二〇一八年十一月～二十二年末までに発布された主な軍関連法・条例（改正ふくむ）は以下の通り。¹⁹⁾

◇烈士表彰条例（二〇一九・八・九）

◇軍隊文書等記録条例（二〇一九・一一・一六）

◇軍隊安全管理条例（二〇一九・一一・一六）

◇軍隊監察工作条例（試行）（二〇二〇・一・二〇）

◇軍隊組織編制管理条例（試行）（二〇二〇・二・七）

◇中国人民武装警察法（二〇二〇・六・二〇）

◇中国退役軍人保障法（二〇二〇・一一・一一）

◇中国国防法（二〇二〇・一一・二七）

◇中国海警法（二〇二一・一・二三）

◇軍隊政治工作条例（二〇二一・二・一九）

◇国際軍事協力工作条例（二〇二一・二・二〇）

◇中国軍事施設保護法（二〇二一・六・一一）

◇中国軍人地位・權益保障法（二〇二一・八・二）

◇中国兵役法（二〇二一・八・二〇）

◇中国陸地国境法（二〇二一・一〇・二三）

◇中国予備役人員法（二〇二二・一一・三〇）

制度改革開始以降、わずか四年間で十六の法・条例が制定された。国防法・兵役法・武警法等の原則的な法律が六つ、安全管理条例・監察工作条例等、軍隊管理に関するものが六つ、軍人地位・權益保障法等人的資源に関する法律が三つ、国際協力に関するものが一つである。スペースの関係でここでは記述しなかったが、更に細かい各種「規定」や「方法」に分類される規則類も次々と制定されている。

国防法や兵役法等は国家機能の根本に係る原理原則的な法律であり、軍だけで制定できるものではない。中共中央総書記・国家主席を兼ねる習近平中央軍委の

強い指導の下、法による制度の整備、管理の実施を国として推進していったと考えられる。

ウ 機械化の基本的実現

軍改革と並行して、二〇二〇年に機械化を基本的に実現し、情報化建設に重大な進展をもたらし、戦略的能力を大幅に向上させるという軍の目標の下、装備品の近代化も推進された。

二〇二〇年十一月、国防部報道官が「我が軍は既に基本的に機械化を実現し、情報化建設において重大な進展を遂げている」と述べており、軍の機械化、すなわち武器・車両等の装甲化・自走化等装備の近代化と一定の情報システム構築は完了したと宣言している。「基本的に機械化を実現」と述べていることから、制度改革の期間において全部隊とはいかなくとも、台湾侵攻担当部隊等重要な作戦単位の装備の近代化は行われたと考えられる。

(4) 戦備運用改革

ア 国防・軍隊改革検討会

二〇二二年九月に「国防・軍隊改革検討会」が開

催された。²¹ 会議では、これまでの改革の成果を評価し、事後の改革計画の策定が行われた。当会議で、二〇一五年十二月～二〇二二年九月までの六年十カ月に及ぶ改革を一度総括し、事後の改革について指示したと言えよう。

習近平は同会議で軍改革について「長期間国防・軍隊建設を阻害してきた体制的障害、構造的矛盾、政策的問題を解決し、改革は歴史的成果をあげた」と評価した。

「体制的障害」は指導指揮体制改革により中央軍委主席から統合部隊までの一本化した指揮系統になったことで排除された。「構造的矛盾」は部隊改革の軍種・兵員構造等の見直し等により解消された。「政策的問題」は制度改革の法による制度・管理体制確立により解決された。これらにより、中国軍が「戦える」軍に生まれ変わったとして、習は「改革の歴史的成果」と評価したと言える。

更に習は「新たな情勢と任務の要求に基づき、戦争準備に焦点を当て、改革の成果を定着させ、事後の改革を強化せよ」と続けた。「歴史的成果」を踏まえ、こ

れ以降は①改革の成果の定着、②新たな情勢と任務の要求と戦争準備を焦点とする改革を指示したと言える。イ 改革の成果の定着

改革の成果の定着では、部隊における定着、特に基礎訓練の実施を重視したと考えられる。

改革開始から六年十ヶ月、部隊の状況を鑑みるに、指揮機構・部隊編成・人員構成が刷新され、新たな制度が始まり、新装備も導入された。部隊はこれらへの対応に忙殺され、訓練などしている暇はない、といった状況は想像に難くない。部隊指揮官も、新装備の取り扱いから統合化された部隊の指揮手順まで、実際どのように訓練を積み上げていけばよいのか手探り状態であったであろう。

基礎訓練さえおろそかになっているとの危機感を背景に、これらの問題に対処するため「全軍基礎訓練現地会議」が二〇二三年六月に開催された。²² 中央軍委副主席以下各戦区・軍種・機関・武警の指導者が出席、全軍の旅団以上の作戦部隊や軍学校等もテレビ会議で参加し、各軍種・武装警察部隊の訓練を視察、基礎訓練の方式や普及等について検討を実施した。

会議では、教官の専任化・訓練単位の集約化・訓練のモジュール化・検閲の標準化等が指示され、全軍における教育訓練に一定の方向性を与えた。

二〇二四年一月の新年度訓練開始に際しての本年の重視事項として、国防部報道官が「一に基礎訓練、二に対抗訓練、三に統合訓練、四が科学技術による演練」と述べている。二〇二四年においてはまだ基礎訓練を重視して改革の成果を定着させつつ、訓練を強化している段階であろう。

ウ 戦備運用改革

改革の成果の定着と共に、指示されたのが「新たな情勢と任務の要求と戦争準備を焦点とする事後の改革」である。

「新たな情勢と任務の要求」とはロシアによるウクライナ侵攻開始等の世界情勢と共に、新領域・新性質戦闘力への取組を指していると考えられる。

また、「戦争準備」とは、正に台湾侵攻準備の事であり、「戦える」ようになった部隊に「戦争準備」を如何にさせて、如何に運用していくかということであろう。

二〇二二年十月に開催された中国共産党第二十回大会の習近平の政治報告では、「新領域・新性質の戦備の拡充」、「全面的に訓練・戦争準備を強化し、軍の戦って勝てる能力を向上させる」と述べており、この「新領域」「戦争準備」を重視していることが伺える。そしてこの二つにおいて、まず「戦争準備」を優先させて、戦備運用改革が開始された可能性がある。

次頁の表2は二〇二三年三月の全人代人民解放軍・武装警察代表团全体会議（以下、軍代全会）での習近平の重要講話と軍・武警代表の発表テーマである。軍代全会は全人代に参加する中央軍事委員会及び各戦区・軍種の主要幹部が参加し、習中央軍委主席が全軍にその意思を徹底させる場であり、中国軍がその一年間に重視すべき事項が示される。

習近平が中央軍委主席に就任してから二〇二二年までの軍代全会での重要講話は軍改革に関連したものが主であったが、二〇二三年は国家戦略システム・能力の一体化が強調され、改革後の部隊を国家戦略システムの中に取り入れ如何に運用していくかが重視された。また、重要インフラ建設、国家備蓄制度、国防教

表 2：2023 年 3 月軍代全会²⁵

習中央軍委主席の重要講話	軍代表の発表テーマ
①思想・認識の統一、使命の自覚、実行の徹底 ②国家戦略システム・能力の一体化建設の新局面を開拓	①国家実験室建設 ②国防科学技術工業能力建設 ③重要インフラの総合的建設 ④国家備蓄制度建設 ⑤陸・海上国境防衛 ⑥全国民への国防教育

表 3：2024 年 3 月軍代全会²⁸

習中央軍委主席の重要講話	軍代表の発表テーマ
①使命の自覚を強化し、改革刷新を深化 ②新領域における戦略能力の向上	①海洋状況把握能力構築 ②サイバースペース防御能力向上 ③ AI の活用推進 ④宇宙資源の統一計画・管理・使用の強化 ⑤新領域の標準汎用化の強化 ⑥無人作戦能力構築と運用の刷新

育等の発表テーマは、有事の継戦能力維持に関連するものである。部隊のみならず国家として戦争準備を行い、如何に運用していくかという戦備運用改革を進めていると考えられる。

実際の部隊の動向に目を転じれば、二〇二二年以降、台湾侵攻作戦を主担当する東部戦区及び副担当の南部戦区において、台湾正面部隊の前方展開、戦備訓練及び統合訓練の強化が確認された。²⁶特に東部戦区は二〇二二年八月にペロシ米下院議長（当時）訪台を契機とした大規模統合演習「聯合軍事行動」を実施、その後「聯合利剣」と称する大規模統合演習を二〇二三年四月、二〇二四年五月に実施し、統合訓練を深化させ、戦備運用改革の成果を確認している。²⁷

(5) 新領域改革

このように戦備運用改革を継続しつつ、二〇二四年からは新領域への対応、新領域改革に本格的に着手したと見られる。

上の表3は前項でも述べた軍代全会の二〇二四年の内容である。

二〇二四年には「新領域」という言葉が初めて軍代全会の重要講話に登場した。「新領域」(中国語では「新興領域」)は、解放軍報の論説等では、「海洋、宇宙、サイバースペース、生物、新エネルギー、AI等の領域」と解説されている。軍代表の発表テーマも、サイバースペース、AI、宇宙、無人兵器と新領域に関するものが占めた。

二〇二四年四月には二〇一五年に新領域に対応するため創設された戦略支援部隊が解組され、情報支援部隊、軍事宇宙部隊、サイバースペース部隊の三コ部隊に改編された。²⁹

軍改革の目玉事業の一つであった戦略支援部隊を僅か八年余りで解組したことは、習近平が期待したほどの新たな戦力としての発展がみられず、任務達成不十分と評価された可能性が大きい。

戦略支援部隊は、情報・宇宙・サイバーを主任務とし、現代戦には不可欠な新領域に属するものの、いずれも専門性が高く、かつ技術革新のスピードに追随する必要がある。これを一司令部で担当するには領域が広すぎ、質・速度ともに期待された成果を十分達成出来なかつたのであろう。

任務達成不十分な組織に対する厳しい姿勢を示すと共

に、新領域への対応が今後の軍事力整備の最重要事項であるという習近平の意思を軍内外に宣言したと言える。今後は情報・宇宙・サイバーの各新領域において、より専門性・効率性を追求した三コ部隊による改革加速を目指していくと考えられる。

5 今後の軍改革の行方

戦備運用改革、次いで新領域改革を推進していく中、二〇二四年七月十五〜十八日の共産党第二十期三中全会において、軍関連では以下の三点が指示された。³⁰

- ① 人民軍隊領導管理体制メカニズムの完備
- ② 統合作戦システム改革の深化
- ③ 軍・各級政府・民間の枠を越えた改革の深化

まず、①でなによりも「党の軍隊」であることが強調され、中央軍委主席への権力集中が確認された。三中全会の間、規律違反により前国防相李尚福・前ロケット軍司令官李玉超他一名の軍高官の党籍剥奪処分が発表されている。また、一か月前の二〇二四年六月には習近平が自ら開催を決定した「中央軍委政治工作会议」が革命の聖地、延安で

開催され、中央軍委各機関・各戦区・各軍種・武警等の主要指導者に対し、党の軍に対する絶対的指導・統率の堅持、政治による建軍、腐敗分子の存在を許さず部隊の健全性を向上させよと訓示を行った。

軍改革の障害は高官といえども容赦なく排除するという強い決意を徹底したと言える。

そして、②で中央および戦区の統合作戦の深化、新軍種部隊との融合等が強調された。統合作戦能力向上を主眼として戦備運用改革を継続していくと考えられる。

最後に③で、国家戦略システムの一体化や国防事業での政府や民間との協力体制強化が強調された。特に新領域改革において、国家をあげての科学技術振興や民間技術の活用等を念頭においてのことであろう。

今後の軍改革は戦備運用改革を継続しつつ、新領域改革を最も重視して展開すると考えられる。「戦える」ようになった部隊に「戦って勝てる」能力を付与していく段階である。

そして次の結節は、建軍百年奮闘目標を掲げた二〇二七年である。建軍百年奮闘目標については、二〇二〇年十一月に国防部報道官が以下の四つを表明している。³²

◇機械化・情報化・知能化の融合発展を加速させ、世界の軍事変革において主導権を握る

◇軍事理論・軍組織・軍人・武器装備の近代化を加速させる

◇質の高い発展を最重視し、軍事システムの運用と国防資源の有効活用を効率的に行う

◇国防と経済発展を調和させ、社会の優れたアセットを活用し、軍を安定かつ長期的に発展させる

特に、第一項目にあげている「世界の軍事変革において主導権を握る」とは、日本を含め、世界で軍事変革の焦点となっているAIやサイバー等の「新領域」で優位な地位を占めるとの意味と考えられる。

中国軍にとって次の結節である二〇二七年までに戦備運用改革を終了させ、台湾侵攻を可能とする戦争準備を完成させる可能性がある。更に新領域改革を引き続き行い、二〇三五年に近代化を基本的に実現し、二〇五〇年の世界一流の軍隊完成を目指し、更に改革を推進していくであろう。

6 おわりに

習近平は二〇一三年から自ら先頭に立ち軍改革を主導してきた。中央軍委主席として国防・軍隊改革領導小組の組長となり、軍改革の実施組織・計画等検討の段階から指揮を執り、段階的に改革を推進、結節毎に会議を開催しこれまでの総括を行い、事後の指針を明示した。また、全人代や部隊視察等の場において直接軍に訓示を行い、部隊レベルまでその浸透を図った。

更に中共中央総書記として、中国の経済建設と軍事建設のバランスをとり、軍民融合を推進し、中国の国家目標における軍の役割を明確にし、適切に軍の目標も付与してきた。

この習近平の一貫した姿勢の下、軍改革は着実に実施され、定着し、不備点は是正されてきた。中国軍は「戦える・戦って勝てる」軍隊に生まれ変わりつつある。人員・装備の面では既に台湾軍を凌駕しており、台湾周辺での統合演習やミサイル実弾演習等の訓練の積み上げも着実に進んでいる。

軍改革により中国軍は、機械化され訓練を積んだ部隊が、中央軍委主席の命令の下、一体化した統合作戦を実施でき

る能力を保持し、戦争準備を整えている段階まで至りつつある。

一方、「世界一流の軍隊」、即ち米軍には未だ及ばないことも理解している。しかし中国の強さはそのギャップを埋めるために次に何をすべきかも理解しており、習近平に権力を集中させ、習の指示の下、国家をあげてこのギャップを埋めるよう迅速かつ効率的に対処できることである。今後は新領域での戦力強化を重視し、「戦える」部隊の情報化・知能化を推進し、「戦って勝てる」能力を付与していくであろう。

中国軍は既に僅か十年前の改革前の中国軍ではない。我々はこの事実を強く認識し、軍改革後の中国軍を冷静に評価し、これに対処していく必要がある。

【参考文献】

- 1 「中国共产党第十八届中央委员会第三次全体会议公报」二〇一三・一一・一二
- 2 「历史上的今天・二〇一二年十一月二十九日、习近平提出「中国梦」」二〇一二・一二・二九
- 3 「十二届全国人大一次会议在京闭幕」二〇一三・三・一八
- 4 「中国共产党第十九次全国代表大会关于《中国共产党章程（修正

案》の決意」二〇一七・一〇・二四

5 「『新时代的中國國防』白皮書全文」二〇一九・七・二四

6 「习近平在中國共產黨第十九次全國代表大會上的報告（全文）」
二〇一七・一〇・二七

7 「中國共產黨第十九屆中央委員會第五次全體會議公報」二〇二〇・
一〇・二九

8 「习近平・富國和強軍相統一 鞏固國防和強大軍隊」二〇二二・
一一・二二

9 「习近平出席解放軍代表團全體會議」二〇一三・三・一一

10 「主持召開中央軍委深化國防和軍隊改革領導小組第一次全體會
議」二〇一三・三・一五

11 「习近平・全面實施改革強軍戰略 堅定不移走中國特色強軍之路」
二〇一五・一一・二六

12 「強軍十年大事記」中國軍事科學院 二〇二二・一〇・一〇

13 「习近平在中央軍委軍隊規模結構和力量編成改革工作會議上強調
抓住機遇 一鼓作氣 乘勢而上 扎實推進軍隊規模結構和力量編成改
革」二〇一六・一一・三三

14 「強軍十年大事記」中國軍事科學院 二〇二二・一〇・一〇

15 「政府工作報告二〇一八年三月五日在第十三屆全國人民代表大會
第一次會議上國務院總理李克強」二〇一八・三・五

16 「习近平出席中央軍委政策制度改革工作會議並發表重要講話」
二〇一八・一一・一四

17 「中央軍委深化國防和軍隊改革領導小組第四次會議在京召開」
二〇一八・一一・一九

18 「強軍十年大事記」中國軍事科學院 二〇二二・一〇・一〇

19 中華人民共和國國防部HP 法規文獻／法律法規／列表

20 「二〇二〇年十一月國防部例行記者會」二〇二〇・一一・二六

21 「习近平對國防和軍隊改革研討會作出重要指示」二〇二二・
九・二二

22 「全軍基礎訓練現場會在天津召開」二〇二三・六・二二

23 「二〇二四年一月國防部新聞發言人張曉剛就近期涉軍問題發布消
息」二〇二四・一・二二

24 「习近平・高舉中國特色社會主義偉大旗幟 為全面建設社會主義
現代化國家而團結奮鬥——在中國共產黨第二十次全國代表大會上
的報告」二〇二二・一〇・二五

25 「习近平出席解放軍和武警部隊代表團全體會議並發表重要講話」
二〇二三・三・八

26 國家基本問題研究所HP 「画像から見る中國人民解放軍戰力整
備の方向性」二〇二四・四・二六

27 國家基本問題研究所HP 「聯合利劍・二〇二四Aの概要」二〇
二四・五・三一

28 习近平出席解放軍和武警部隊代表團全體會議」二〇二四・三・八

29 「中國人民解放軍信息支援部隊成立大會在京舉行」二〇二四・
四・二〇

30 「中國共產黨第二十屆中央委員會第三次全體會議公報」二〇二四・
七・一八

31 「中央軍委政治工作會議在延安召開 习近平出席會議並發表重要
講話強調 貫徹落實新時代政治建軍方略 為強軍事業提供堅強政治保
證」二〇二四・六・一九

32 「二〇二〇年十一月國防部例行記者會」二〇二〇・一一・二六